

香川県の地震

令和5年(2023年)2月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	1

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会(注)

評価検討会調査結果 令和5年(2023年)3月7日	・・・	2
---------------------------	-----	---

(注)直近に開催された評価検討会の調査結果を掲載します。

地震一口メモ

令和5年2月1日より、緊急地震速報の発表基準に 長周期地震動階級を追加しました	・・・	3
--	-----	---

この資料の震源リスト・震源要素(緯度、経度、深さ、マグニチュード)は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

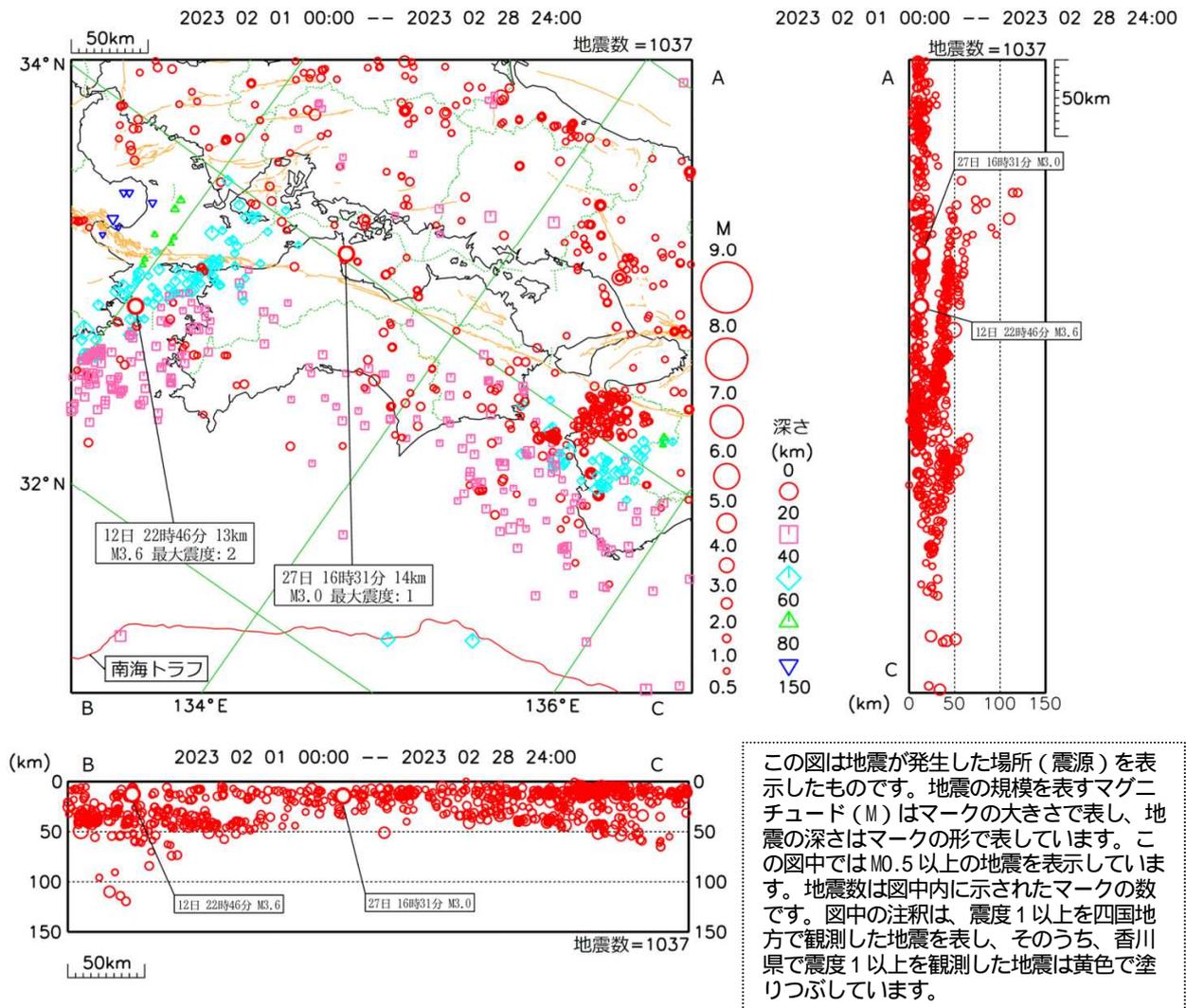
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点(よしが浦温泉、飯田小学校)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2023年2月

震央分布図、断面図



〔左上：震央分布図、右上：A-Cを投影面とした断面図、左下：B-Cを投影面とした断面図〕

地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした（前月は0回）

四国で震度1以上を観測した地震は、次の2回でした。

12日22時46分 豊後水道の地震（深さ13km、M3.6）により、愛媛県西予市で震度1を観測しました。この地震では、大分県佐伯市で震度2を観測したほか、愛媛県、大分県、宮崎県で震度1を観測しました。

27日16時31分 瀬戸内海中部の地震（深さ14km、M3.0）により、愛媛県今治市で震度1を観測しました。

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会】

気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

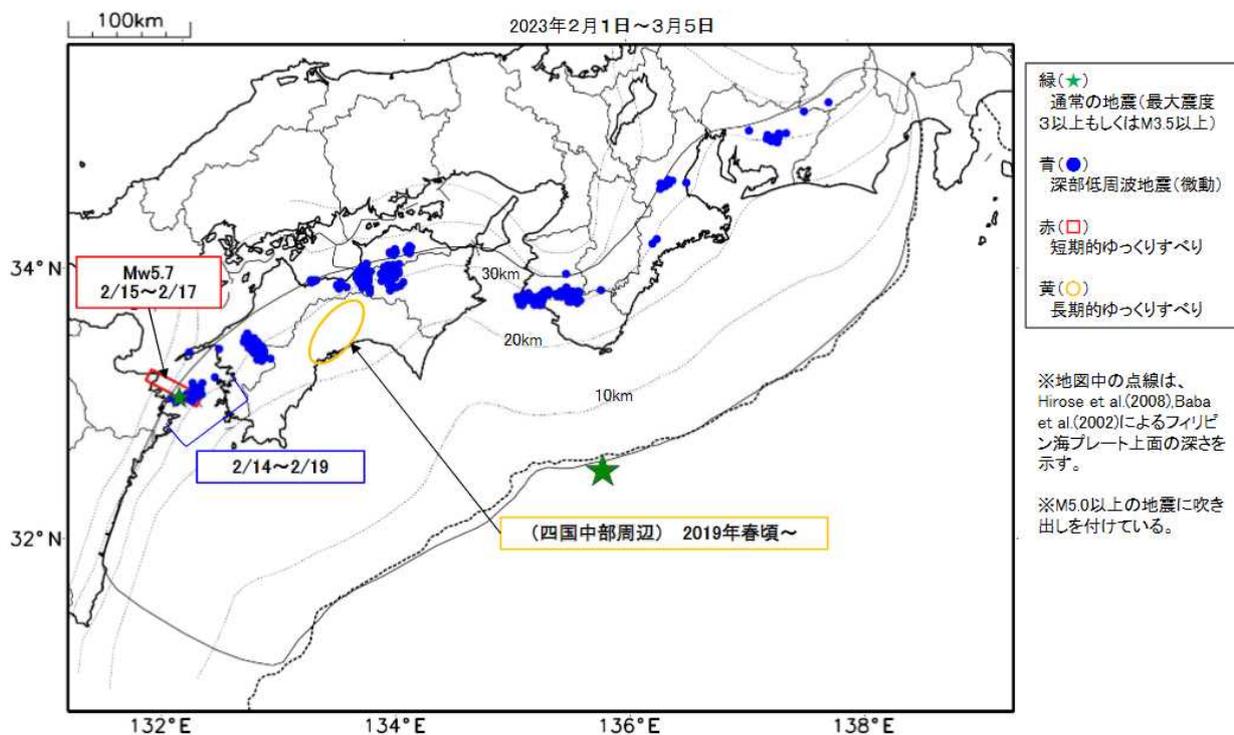
令和5年(2023年)3月7日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果(概要)】

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注)南海トラフ沿いの大規模地震(M8からM9クラス)は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上)……………気象庁の解析結果による。
深部低周波地震(微動)……………(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり……………【四国西部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり……………【四国中部周辺】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青)、短期的ゆっくりすべり(赤)、長期的ゆっくりすべり(黄)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2303/07b/nt20230307.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム> 防災情報> 南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

令和5年2月1日より、緊急地震速報の発表基準に長周期地震動階級を追加しました

これまで緊急地震速報は、震度の予想によって発表してきました。令和5年2月1日より、発表基準に長周期地震動階級の予想値を追加して提供することとし、**長周期地震動階級3以上を予想した場合でも、緊急地震速報（警報）を**発表します。

表 緊急地震速報（警報）の発表基準

発表基準	震度5弱以上を予想した場合 +（または） 長周期地震動階級3以上を予想した場合
対象地域	震度4以上を予想した地域 +（または） 長周期地震動階級3以上を予想した地域

緊急地震速報（予報）の発表条件には、長周期地震動階級1以上を予想した場合を追加しました。

なぜ緊急地震速報の発表基準に長周期地震動階級を加えるのか

過去の長周期地震動による被害を踏まえ「長周期地震動に関する情報検討会」を開催し、検討を行った結果、

- ・「長周期地震動により人命に係る重大な災害が起こるおそれがある」
- ・「近年の高層ビルの増加により長周期地震動の影響を受ける人口が増加している」
- ・「長周期地震動階級を予測する技術が進展し実用の域に達した」

ことにより、気象庁から警戒・注意を呼びかける予測情報を発表することとなりました。

今まで手薄だった地震による高層階の揺れに対しても緊急地震速報を発表できるようになりました。

どのように伝えるか

予測情報の発表の仕方としては、複数の異なる警報を出すことは受け手側の対応が困難になることやとるべき行動に大きな違いがないことから、緊急地震速報の基準に加えることとしました。

緊急地震速報の発表基準に長周期地震動階級が加わりますが、緊急地震速報発表の流れは変わらず、区別せずにお伝えします。

緊急地震速報の内容として、

- ・長周期と短周期でとるべき行動に違いが無い
- ・猶予時間が限られる
- ・長周期地震動階級で緊急地震速報が発表される頻度は少ない
- ・長周期地震動階級3以上の場合は震度3以上が観測されることが多い

ということからも、現行の緊急地震速報と同様にまずは身を守る行動をお願いします。

気象庁ホームページ 緊急地震速報の発表基準の変更について

https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/lpgm_start/lpgm_start.html

緊急地震速報の発表基準に長周期地震動階級を追加することに関する説明資料・参考資料

説明資料 https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/shiryo/lpgm_start202302/202302_setsumei.pdf

参考資料 https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/shiryo/lpgm_start202302/202302_sankou.pdf

よくある質問について

https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nc/lpgm_start/faq/lpgm_start_faq.html